

言語教育・研修集団主宰 あんどう しゅうへい 安藤 修平氏

## 『今どきの子』をどう育てるか ～6566日のリレー～

安藤修平先生は、北海道学芸大学（現北海道教育大学）を卒業後、札幌市内の小学校教諭、文部省（現文部科学省）、大学教員をお勤めになる中で、子どもと大人のコミュニケーションの大切さや、子どもが育つ環境と育ちについて研究をされてきました。

テレビやゲーム機、さらに携帯電話の普及は、子どもの「ゲーム脳」や「テレビ脳」などを生み出し、さらに人と人とが向かい合い、ともに育つ環境が減ってきていることを大人が理解して、子どもと向き合うことが大切だとおっしゃっていました。講演会を、以下のようにまとめました。

- ・法律上、成人は20歳からだが、18歳になったら一人前。
- ・「No!」と言える親になろう。
- ・お客さんがたくさん来る家の子どもは、他人と関わる機会が多い。お父さん、家にたくさんお客さんをつれてきて。
- ・否定語は心の傷を深くする。だから否定語は使わない。
- ・親も、子どもと一緒に学び合い。子どもが親を親にしてくれる。
- ・地域の大人は子育て応援団。子どもに声をかけよう。

### 参加者の感想（PTA 関係者 女性）

安藤先生のお話を聞くのは、昨年に続き2回目でした。昨年のお話は、前頭葉のお話を中心に、すごく衝撃を覚えました。子どもたちにもそのお話を伝え、ゲームを長い時間しないように言った記憶があります。

今年の講演会は、その応用編のような内容で、特に、【0歳～3歳→保育所→小学校→中学校→高校】とリレーで結ぶという考えは、斬新なものでした。

「人と関わるのが大切」「縦のつながりが大切」とのお話は、とても共感もてました。我が家には、中学2年生と高校3年生の子どもがいます。なるべくたくさんの人と関わりをもってほしいと思って、小さいころから少年団の活動を勧めてきました。子どものうちに、社交性の基本を身につけてほしいと考えていたことが、間違っていないと感じることができました。

高校3年生の娘は、春から大学へ進学します。「子育ての応援団」としてのお話もありましたが、自分の子どもが一人立ちしても、地域の子育て応援団として、子育て中の方、そして子どもたちの応援団をしていきたいと思っています。



## 2つの子育て講演会、内容の紹介

北翔大学短期大学部子ども学科教授 やばな つかさ 矢花 司氏 講演会  
「上士幌の子育てに夢を持って ～子育て八策～」

矢花 司 教授は、本別町のご出身で、十勝管内で小学校教諭もされるなど、この十勝にご縁の深い先生です。講演会では、矢花教授の教員時代のお話をはじめ、現在学生を指導しながら考えたこと、また、ご自身の子育ての経験なども踏まえ、ご自身が考えだされた「子育て八策」を中心にお話を頂きました。

- |                     |                           |
|---------------------|---------------------------|
| ・第一策 子どもの心を受け止める    | → 子どもの本音や不安を受け止めることが重要!   |
| ・第二策 マナーやモラルを教える    | → ウチとソトの使い分けが大切!          |
| ・第三策 いい顔付きにする       | → 顔立ちは親のせい! 顔付きは自分のせい!!   |
| ・第四策 会話力を育てる        | → 沈黙は禁、笑いは文化!             |
| ・第五策 伸ばす言葉、つぶす言葉    | → 甘口、辛口、渋口の使い分けが大切!       |
| ・第六策 見える舵取り、見えない舵取り | → 注意する? 見守る? 知らんぷり? の使い分け |
| ・第七策 七勝八敗で丁度いい      | → 負け方、勝ち方を教える             |
| ・第八策 子どもの育ちを太くする    | → 地域総がかりで子どもと向き合う         |

### 参加者の感想（PTA 関係者 女性）

矢花先生の「子育て八策」は、難しいことを求めたり、理想を語るものではありませんでした。昔、私を育ててくれた親に、「笑う門には福来たる」「相手のことを考えなさい」ということを、いつも言われていたことを思い出しました。

今回の講演会、何か新しい発見があったということではありませんでしたが、昔、自分の親がそうしてくれていたことを、久しぶりに振り返る機会となりました。今、子どもが育っている環境を、矢花先生は「育ちが細い」とおっしゃっていました。「育ちを太く」するために、子どもと向き合っていきたいな、と思う時間でした。



# それゆけ! 青年会 【その35】

こんにちは、青年会です。早いものでもう年度末となり、今年度の青年会の活動も残りわずかとなってきました。ここまでの行事を振り返ってみますと、新会員がたくさん入会したこともあり、各行事の参加人数も増え活動に厚みや盛り上がりが出てきたのではと感じています。

さて、今回のそれゆけ青年会は2月に行われた一夜研修、子ども冬まつりのお手伝いについてです。広報委員2名にレポートしてもらいましたので御覧下さい。

## レポート1 一夜研修

今回の一夜研修は旭川・釧路・帯広・中札内の各班に分かれて、それぞれのご当地食材を集めて3区集会所にて鍋をしました。

釧路は、ちょっと豪華な「カニ鍋」、中札内は地場産業の「鳥・卵鍋」など、個性豊かなものとなりました。

道中ハプニングが何度か起きたり、風邪が流行っていたこともあり、急遽欠席者が出るというトラブルもありましたが、事故等もなく無事に食材が揃い、鍋を囲むことができました。

皆で楽しい時間を過ごせて、とてもよかったですと思いました。

(記一大道)



## レポート2 子ども冬まつり

2月13日、町民運動広場（スケートリンク横の広場）で子ども冬まつりが行われました。当日は晴れたものの、風が強く寒かったです。

毎年、青年会はフランクフルトとシチュー、カレーの提供を担当しています。

9時に集合し、すぐに火をおこし、フランクフルトの準備をしつつ、学習センターにシチューを取りに行ったりと、慌ただしく作業を行いました。10時頃から配布を開始したのですが、さすがにフランクフルトは人気があるようで、行列が出来ていました。その間色々な競技が行われ、子どもたちはすごく楽しそうにしていました。

カレーの提供はお昼に行いましたが、フランクフルトと同じ位の人気にはビックリしました。行列が収まったころ、青年会などお手伝いの人が交代で昼食をとりました。食缶に入ったカレーを見ると、小学生の頃に食べていた給食を思い出しくなりました。

外で元気に走り回る子どもたちは、友達と楽しく冬祭りを満喫しているようでした。

今回の冬まつりに関わったすべての方、お疲れ様でした。

(記一齋藤)



～北の元気まちから発信～

# 早ね 早おき 朝ごはん

時代の変化・生活の多様化に伴い、子ども達を取り巻く環境も変化しています。

次世代を担う子ども達が、元気いっぱい毎日過ごし、成長していく土台づくりとして「早ね 早おき 朝ごはん」に取り組んでいこうと思います。

これまでの取り組み↓

## ←親子朝ごはん料理教室

町内の栄養士3人を講師に迎えて開催しました。基本の朝ごはんをテーマに、「しゃけおにぎり・具たくさんみそ汁・野菜たっぷり卵焼き」を作りました。保護者の方のご協力で、立派な朝ごはんを作ることが出来ました。お家でも、ぜひ作ってほしいものです。

また、JA上士幌町から食材の提供を頂きました。大豆のドライ缶を入れた野菜たっぷり卵焼きは大好評でした。



## 親子陶芸教室 →

ものづくりを通じた親子のふれあいと日常の食卓で使えるお皿づくりをテーマに、上士幌町生きがいセンターのご協力のもと、2日間の日程で行われました。

子どもも大人も夢中?!自分で作ったお皿を使って、毎日の食事の時間を充実したものにしたいと思います。



## ←「はやね はやおき あさごはんのうた」体操

上士幌保育所の子ども達に『はやね はやおき あさごはんのうた』に合わせて体操を覚えてもらいました。「はやね はやおき あさごはん——ん♪♪」の耳に残るリズム。なかなかの運動量で、朝にやれば目覚めもばっちり?!町内の子どもはもちろん、大人にもぜひ覚えて頂きたいです。



## 「早ね 早おき 朝ごはん」

は、子ども達の基本的な生活習慣づくりの他にもいろいろな広がりの可能性を秘めた取り組みだと思えます。この活動を通じて、地域ぐるみで子ども達の健やかな成長に関わる機会をつくっていきたくです。

～地域おこし協力隊より～



# 再発見 地域の宝

シリーズ  
その75

## タウシュベツ川橋梁

タウシュベツ川橋梁は、士幌線跡に残る数あるコンクリートアーチ橋の中でも最も有名な橋といえるでしょう。タウシュベツ川橋梁という名前は知らなくても旧国鉄士幌線の「めがね橋」と聞けば、ほとんどの方がこの橋を思いうかべるのではないのでしょうか。

しかし、その歴史についてよく知る人は多くはないと思います。どのような経緯で現在の「幻の橋」となっていったのか少しお話ししたいと思います。

タウシュベツ川橋梁は、10m径間のアーチが11個ある全長130mのコンクリートアーチ橋で、昭和14年11月18日に糠平・十勝三股間の開業とともに使用が開始されました。130mという長さは、同時期に建設されたコンクリートアーチ橋の中では最大でした。この頃は、まだ糠平ダムがなかった頃の話です。

昭和28年、糠平ダムの建設が始まり、それに伴い旧国鉄士幌

線のルートが一部変更になりました。まず、昭和28年にダム堤体前から右カーブし、385mのトンネルを掘削して、旧糠平駅の600m手前でもとの線路に接続される仮工事が行われました。その後、昭和29年から本体の付け替え工事が行われ、黒石平の第三音更川橋梁を過ぎて西側に分岐し、標高531mに糠平駅を移設、そこから峠を越え、第四音更川橋梁を架けて幌加の音更トンネル手前で旧線路に接続しました。本体付け替え工事が終了し、新ルートの使用が開始されたのが昭和30年8月1日のことでした。

一方、糠平ダム建設は、昭和30年9月には湛水を開始し、昭和31年1月には発電を開始しています。

このことから、タウシュベツ川橋梁がその役割を終えたのは新ルートが使用され始める前日の昭和30年7月31日で、実際に列車が走っていたのは、運行開

始からわずか15年半ほどということになります。また、糠平湖に水没するようになった時期は正確にはわかりませんが、おそらく糠平ダムが湛水を開始した昭和30年9月以降、昭和31年1月の発電開始までの間であったと推測されます。さらに、現在のように橋全体が見え隠れる状態になったのはいつからかは定かではありません。

その後、50年余りの間、湖底に沈む数々の切り株と同じように糠平湖とともにひっそりとあったタウシュベツ川橋梁は、近年、観光スポットという新たな役割を与えられ、本当の意味での終焉を迎えようとしています。



### 委員長の一言

私たち教員は、数年に一度、新しい勤務地に異動します。青年教師時代には「少年団の指導者」ということで期待されて赴任することも少なくありません。始めて赴任した学校には、ミニバスケットボール少年団の指導者（教員）が不在でした。私自身バスケットボールは未経験者です。指導はできないということでも事務局としてお手伝いさせてもらおうと考えていたのですが、地域の指導者が来るまでの間の面倒を見るということになってしまいました。

このチームは、素晴らしい選手とコーチの下、大会で優秀な成績を残しました。私はいつしかミニバスケットボールの魅力に引き込まれていきました。何がきっかけになるかわかりませんが、まず一歩踏み出して、いろいろなものにチャレンジしてみると、新たな世界が開けるかもしれません。

(中村 記)

## 将棋同好会

代表 兼 子直 幸彦

「何もかも忘れて熱中している。呼びかけても気がかない。半日くらいずっと座ったままのこともあるわ。主人と対戦して負けただけ、泣いていたんだから…」この妻の証言が、将棋というものがどんなものか理解するのに一番わかりやすいでしょう。将棋とは、真剣勝負の最高に面白い頭脳ゲームなのです。

私たち将棋同好会は、三十年ほど前から始まり、六十代から七十代までの約十名で活動しています。誘われて入会した方が多く、面白くて飽きない、頭の体操になるということで、三十年近く続けている方もいます。

将棋は、八種類の駒の長所と短所を押さえ、どのように戦うか自分で構想を創り上げ、相手の手を読み、駆け引きすることが大事です。そこには運は入り込みません。実力が全てです。自分の想定外のことを相手が考えていて、ある一手で展開がガラッと変わることも…。本当に奥深い一言です。

新春大会、夏季大会、生涯学習将棋祭りなど、町内で年三回の大会を催し、商品を懸けて多いに盛り上げていきます。



今後は、若い人たちにも将棋の楽しさを広めたいと思っています。教育委員会と連携して、子どもを対象にした将棋教室も実施しています。興味のある方は兼子(②-2301)までご連絡下さい。

(担当-清原)

# 生涯学習しています

## 上士幌は宝の宝庫

棚橋 邦子さん(北門)



いつでも、どこでも、誰でも学べる「参加型まちづくり」に意欲を燃やして、何かを見出そうとしている大勢の町民がいました。

「生涯学習まちづくり」をテーマに、先進地視察や研修を重ね、数々の講義にも参加しました。その時の講師に「町にある文化と宝を探ることがまちを活性化する。お年寄りも地域の宝だよ。」と教わりました。後に教育大学の今尚之助教授のご指導のもと、宝さがしの会が誕生しました。

以前から、町民憲章の中にある「自然を愛し、美しく住みよいまちをそだてましょう」という一節が大好きでしたので、まちづくりに参加しよう決めました。

宝さがしの会は、5つの部会で構成され、私は「食文化部会」と「古老の聞き取り部会」に入りました。食文化のルーツは開拓にありと思い、聞き取り等で「凍れいも団子」「麦芽水飴」「きりたんぼ」作りを実現し、冊子にしました。他にもアーチ橋や遺跡、音更川の流送など会員の手で調査し、残すことにも努力してきました。本当に、上士幌は宝の宝庫です。

●町の宝を集め、8種類の冊子ができました。これこそが私の本当の宝と話す棚橋さん、機会があれば皆さんに見てほしいとおっしゃっていました。

(担当-大友)

## Music Site (ミュージック サイト)

杉山 知宏さん(2区)



高校時代、同級生とロックバンドを作り、活動を始めました。

現在はNIREバンドに所属し定期的に集まって練習しています。ほとんど独学ですが、先輩方や高校時代から気心の知れた仲間にも恵まれ、楽しく続けています。中学生の時、兄の影響でギターを始めましたが、小学生の時に音楽の大好きな先生に、器楽を習い一生懸命に練習しました。そして大勢の前で発表し、たくさんの感動をもらったのが、音楽に興味をもった原点だと思っています。

また、地元の高校生に発表の機会を作りたくて、Music Site (ミュージック サイト)を計画し、11回目を迎えました。今はロックバンド中心ですが、ゆくゆくは、いろんなジャンル、いろんな年齢層の方々にも楽しんでいただけるような音楽祭ができればいいなと思っています。

夢は、たくさんの町民が一日中音楽に触れること。まずは、自分の子どもたちから仲間に入れたいと思っています。

●冬期間はスケート少年団のコーチとして30人の子もたちと向き合い、娘さんのピアノ発表会では連弾に挑戦されたりと、常に楽しさと厳しさを教えていらっしゃるようです。いつか音楽好きの子がバンド仲間に入るかも…。

(担当-斉藤)